

| | |
|------------------|---|
| Title | 明治初期の高札制札：茅ヶ崎市に発見の七枚 |
| Sub Title | |
| Author | 武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo) |
| Publisher | 三田史学会 |
| Publication year | 1962 |
| Jtitle | 史学 Vol.34, No.3/4 (1962. 3) ,p.50(304)- 50(304) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 余白録 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19620300-0050 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

明治初年の高札制札―茅ヶ崎市に發見の七枚―

過日、茅ヶ崎市濱之郷の尾坂龜代司氏宅を訪ねて、近頃屋根裏から發見の高札制札を調査したが、慶應四年三月より明治三年までのもので、王政復古の宣布を始め切利支丹の禁制など七枚で、文字も判讀しうる程度によく保存されていた。内容は諸書に散見のもので珍らしくないが、七枚も大量に保存されたことが稀な例である。

同氏宅は若干改修はあつたが、大黒柱も、えびす柱も殿として存し、式臺の跡もあり、百三十年前後の庄屋造りである。明治初年頃に、先々代が戸長の類を務めていたと云うから、切利支丹禁札の取りはずしの頃に、同家に保管されたものと思われる。

同地の近くには、鎌倉時代に武將の崇敬が厚かつたと云う鶴嶺八幡宮が鎮座し、少し離れて大正大震災に出現の鎌倉時代に相模川に架けた橋の杭柱があり、また參道の並木附近に接する東海道邊は門前町として發達して宿場となつて茶屋町と稱し、茅ヶ崎市の江戸時代の中心地である。蜀山人が東海道中に、この宿場で海濱の鮮魚の美味に舌打ちしたと云う江戸屋もこの近くに残つてゐる。また廣重の筆にかかる左富士の景色もこの邊の眺めである

